

第3学年 社会〔歴史的分野〕

「大正デモクラシーと政党内閣の成立」(4時間)

1 単元の目標

- ① 大正時代の政治・経済・社会・文化の概要を理解し、多くの民衆運動が起こった背景として国際協調の高まりや民族運動などを調べ、国際情勢について考察する。
- ② 有権者数の増加などの資料を用いて民衆運動の動きを読み取り、大正デモクラシーを現代の民主主義と比較して考察し、自分の意見を表現する。

2 単元の指導計画

- (1) 国際協調の高まり
- (2) アジアの民族運動
- (3) 大正デモクラシーと政党内閣の成立
- (4) **広がる社会運動と普通選挙の実現(本時)**

3 本時の指導計画

- (1) 本時のねらい
 - ・第一次世界大戦後の日本や世界の民主主義の動きを知り、大正デモクラシーの考え方や男子普通選挙の実現について理解する。
- (2) 主権者教育との関連
 - ・大正14年の普通選挙法が成立されるまでの過程を考察することを通して、主権者として選挙権の重要性を理解し、選挙権を行使しようとする態度を育てる。
- (3) 本時のテーマ

日本では、どのようにして普通選挙権が実現したのか。

(4) 本時の展開

主な学習活動・内容	★主権者教育との関連で評価する視点	指導上の留意点
1 吉野作造の「民本主義」の主張にある普通選挙が、どのように実現してきたか予想する。 2 大正デモクラシーで起こった政治的な出来事と社会運動について調べる。 ・大戦景気とその後の米騒動 ・第一次護憲運動の展開 ・政党内閣の成立 ・様々な社会運動の増加 3 大正デモクラシーの時期の国際情勢を調べる。 ・シベリア出兵 ・協調外交 4 男子普通選挙法が成立したことは、この時代にどのような意味をもたらしたのか話し合う。 ・大正デモクラシーの思想の実現 ・国際的にも実現は少なかったが、女性の参政権がないことに課題が残る。	★選挙権が拡大した過程を学ぶことで、選挙の重要性を理解している。 ★普通選挙法が成立した意義を基に、選挙権を行使することの大切さを考えている。	・平塚らいてうや全国水平社などの社会運動に参加している人々や、それぞれが要求していたことなどを整理する。 ・普通選挙法と同年に治安維持法が施行された意味についても考えさせるようにする。 ・現代の民主主義と比較する視点をもたせる。

第3学年 社会〔公民的分野〕

「私たちの生活と社会保障」（3時間）

1 単元の目標

- ① 社会資本の整備や公共サービスなど、政府の経済活動や租税の働きについて理解する。
- ② 社会保障の充実など市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす経済的役割について効率や公正の考え方に基づいて考え、理解する。

2 単元の指導計画

- (1) 国の経済活動
- (2) 国の歳入と歳出の特色
- (3) **社会保障の仕組（本時）**

3 本時の指導計画

- (1) 本時のねらい
 - ・社会保障制度が私たちの生活にもたらす役割とともに、現在の社会保障制度には、どのような課題があるのか理解する。
- (2) 租税教育との関連
 - ・少子高齢社会の中で、将来の納税者として社会や国の在り方を主体的に考える資質や能力を育てる。
- (3) 本時のテーマ

国民皆保険制度とは、どのようなものか。

(4) 本時の展開

主な学習活動・内容	★租税教育との関連で評価する視点	指導上の留意点
1 病院の領収書の内訳を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・領収書の合計金額と負担額の違い ・日本の国民皆保険制度の特徴 ・諸外国の医療保険制度 2 社会保障制度を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会保険 ・公的扶助 ・社会福祉 ・保険医療及び公衆衛生 3 社会保障制度が抱える課題を調べ、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障費の増大 ・財源不足 ・世代間、地域間の差 ・高齢者の自己負担額 4 社会保障制度が抱える課題について自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の安定財源の確保 ・税金と社会保険料 ・世代間、地域間の公平 	★社会保障制度の大切さを理解している。 ★社会保障制度の課題から将来を見据え、解決に向けてどのようなことができるか考察している。	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の場面で、病院の領収書を提示し、関心をもたせるようにする。 ・憲法で保障されている「生存権」との関連について触れる。 ・4つの社会保障制度の内容と実際の生活とを関連付けるように助言する。 ・少子高齢社会の状況を踏まえて、課題を考えるように助言する。 ・負担者と利用者の立場から考えるように助言する。

第3学年 社会〔公民的分野〕

「これからの日本の財政と納税」（3時間）

1 単元の目標

- ① 少子高齢社会の進展と社会保障の現状を理解するとともに、他国の社会保障との比較などを通して、今後の在り方を多面的・多角的に考えて理解する。
- ② 国民の生活と福祉の向上に向け、政府が果たすべき役割について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察する。

2 単元の指導計画

- (1) 少子高齢社会がもたらす課題
- (2) 少子高齢社会と財政（本時）
- (3) 財政の課題と将来の財政の在り方

3 本時の指導計画

- (1) 本時のねらい
 - ・将来の社会保障と税の在り方について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめる。
- (2) 租税教育との関連
 - ・少子高齢社会の中で、将来の納税者として社会や国の在り方を主体的に考える資質や能力を育てる。
- (3) 本時のテーマ

どンドン伸びていく社会保障関係費(医療費)をどうするのか。

(4) 本時の展開

主な学習活動・内容	★租税教育との関連で 評価する視点	指導上の留意点
1 日本の財政上の問題を調べる。 ・ 税収の減少 ・ 社会保障関係費の増加 ・ 国の借金の増加 2 現在の日本の財政状況から消費税の役割について考え、話し合う。 ・ 国民の義務としての納税 ・ 安定した財源の確保 3 外国の社会保障制度について調べ、日本の社会保障制度の在り方について考え、話し合う。 ・ 高福祉高負担の国 ・ 低福祉低負担の国 4 今後、増加が予想される社会保障関係費(医療費)に、国民はどのように対応していくべきか、自分の考えをまとめ、発表する。 ・ 社会の状況と医療費の変化 ・ 税金の在り方 ・ 将来の納税者としての考え	★納税者として自分に求められている役割を自覚して考察している。 ★将来の主権者としての視点からどのように対応したらよいか考察している。	・ 導入の場面で、納税についての自分の考えをもたせる。 ・ 社会保障関係費が増えている理由を社会状況と関連させながら考えるように助言する。 ・ 外国の社会保障制度の特徴を簡潔に補足して、考えの根拠にさせる。 ・ 社会保障制度の財源に着目して考えるように助言する。

第3学年 社会〔公民的分野〕

「住民としての地方の政治」（5時間）

1 単元の目標

- ① 地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の仕組み、住民の権利や義務について理解し、住民としての自治意識の基礎を育てる。
- ② 住民の権利や義務に関連させて、民主的な政治と政治参加について、課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、表現する。

2 単元の指導計画

- | | |
|--------------------|---------------------|
| (1) 地方自治と民主政治 | (4) 地方公共団体の現状と課題 |
| (2) 地方公共団体の仕事と仕組み | (5) 私たちの生活と町づくり（本時） |
| (3) 地方自治の変化と私たちの生活 | |

3 本時の指導計画

- (1) 本時のねらい
 - ・自分が住んでいる自治体の町づくりについて、自治体の広報誌やホームページ等を活用して調べ、効率と公正の視点から考えるとともに、自分の考えを提言としてまとめる。
- (2) 主権者教育との関連
 - ・地方自治は住民自治を基本としていることを理解し、主権者として主体的に民主政治に参画する資質や能力を育てる。
- (3) 本時のテーマ

将来の主権者として、住民自治への参画についてどのように考えていけばよいのか。

(4) 本時の展開

主な学習活動・内容	★主権者教育との関連で評価する視点	指導上の留意点
1 前時の学習を踏まえ、課題を確認する。 ・「町の街路整備は、私たち市民の暮らしをよりよくするものだろうか。」 2 課題に対する行政や地域住民、利用者等の考えを調べる。 3 調べたことを効率と公正の視点から検討する。 ・効率→観光客を招致することができるので、町の活性化につながる。 →車線減少により、渋滞を引き起こしてしまう。 ・公正→若者の望む町の姿であり、高齢者にとっても安全で快適になる。 →治安の悪化やごみ問題が発生してしまうか心配である。 4 町の街路整備について自分の考えをまとめて、発表する。	★地域住民であることを自覚し、効率と公正の視点から考察している。 ★住民の一人として、参画意識をもって考えをまとめている。	・街路整備の予定地域の写真と地図を提示して状況を捉えさせる。 ・市の広報誌やホームページ等を活用し、様々な立場の人の考えを捉えさせる。 ・住民自治の考えに基づき、効率と公正の視点から、自分の考えを提言としてまとめるように指導する。

第3学年 社会〔公民的分野〕 「現代の民主政治」(5時間)

1 単元の目標

- ① 法に基づく政治が、社会生活上の対立や争いを調整・解消し、自由と権利を保障することについて理解する。
- ② 選挙や政党、世論の形成など政治参加の仕組みと、主権者としての政治参加の在り方について、多面的・多角的に考察する。

2 単元の指導計画

- (1) 民主政治とその原理
- (2) 政党と政治
- (3) 世論の形成とマスメディア
- (4) 我が国の選挙制度と選挙をめぐる課題
- (5) **政治参加と選挙(本時)**

3 本時の指導計画

- (1) 本時のねらい
 - ・模擬投票において、架空の候補者の主張について多面的・多角的に考察し、政治参加の仕方や意義について自分の考えをまとめる。
- (2) 主権者教育との関連
 - ・主権者として選挙権を行使し、主体的に民主政治に参加する資質や能力を育てる。
- (3) 本時のテーマ

将来、主権者としてどのように政治に参加していくのか。

(4) 本時の展開

主な学習活動・内容	★主権者教育との関連で 評価する視点	指導上の留意点
1 これまでの学習を振り返る。 ・選挙の意義や選挙制度 2 本時の学習課題をつかむ。 ・「市所有の土地利用について、各候補者の主張を参考に、誰に投票するのか根拠を明らかにして投票しよう。」 3 各候補者の主張とともに、模擬的に設定した架空の市の年齢別人口や市民アンケート等の資料を参考に自分の支持する候補者を考える。 4 友達と意見交換をしながら、自分の支持する候補者を考える。 5 自分の支持する候補者を決定し、投票する。 6 投票結果を全体で簡潔に分析する。 7 本時の学習を振り返り、将来、主権者としてどのように政治に参加していくのかについて自分の考えをまとめ、発表する。	★各候補者の主張や資料を参考に多面的・多角的に考察している。 ★将来の主権者として、政治参加の仕方や意義について考察している。	・選挙の投票の写真を提示して興味・関心をもたせるようにする。 ・効率と公正の視点から、各候補者の主張を検討するように助言する。 ・生徒が投票する候補者に偏りがあつた場合は、他の候補者を支持する意見を示すことで補うようにする。

